

## はげみ学習について

### 1. はげみ学習をいつどのように行っているか

- ・隔週水曜日の1校時 年間 17回 場所：学校図書館
- ・全校児童が一堂に会して実施
- ・100ます計算をやった後、個々の学習に合わせてアイテムを進める。
- ・全職員が対応し、個別指導を行う。丸付けは、学習ボランティアにお願いする。

### 2. はげみ学習を始めたきっかけ

<経緯>

#### 平成9年度

・基礎・基本の定着に向け、個別学習の研究指定校である岐阜県の池田小学校を視察した。個別学習用に作成された池田小学校で使っていたプリント集を分けていただき、プリントを増刷し、子どもたちが自分で学習を進めていけるような学習を考えた。

(H7～12年度三倉小職員 花嶋和義先生より)

#### 平成10年度（教育課程より抜粋）

・基礎・基本の定着を図るために『はげみ学習』を導入するとともに、T.T.による指導を行う。

#### 平成11年度（教育課程より抜粋）

・基礎・基本の一層の充実を図るために『はげみ学習』を継続し、各学級担任者が協力し合って指導する。

#### 平成12年度（教育課程より抜粋）

<はげみ学習について>

- ① 2・3・4年生（29名）が合同学習し、2・3・4年生担任3名によるT.T.指導を行う。  
5・6年生（30名）が合同学習をし、5・6年担任と教頭の3名によるT.T.指導を行う。  
1年生（12名）は、2学期より単独で実施し、1年生担任による指導を行う。
- ② 水曜日の1校時を算数とし、はげみ学習を隔週で行う。
- ③ 4月中に定着度測定を行い、(教師・児童ともに実態把握)問題を選択するときの参考資料とする。(高学年は自分で選択・教師の支援。低学年は教師の助言。)
- ④ ステップ問題を重点的に行い、ホップ問題は個別指導に使う。

#### 平成16年度（教育課程より抜粋）

・算数科については、1～4年、5・6年それぞれで隔週1回学年を解体して同一校時に年間18回のT.T.指導を行う。

・平成20年度には、はげみ学習は軌道に乗り子どもたちは何も指示をしなくてもプリント(算数のみ)を自分の進度に合わせて進めることができていた。

(H.20～23年度三倉小職員 花嶋恵美子先生より)

#### 平成26年度現在（教育課程より抜粋）

<はげみ学習について>

- ア 算数の基礎・基本の確実な定着を図る時間として、隔週1回水曜日1校時に実施する。
- イ 年間授業日数を202日にすることで生じる予備時数の内17時間をはげみ学習に当てる。
- ウ 全校職員で指導に当たるとともに、学習ボランティアの力も借りる。
- エ 1年生は、小学校の学習への順応の様子により、適当な時期に実施する。
- オ 1・2年生は、年間10回程度、(はげみ学習の時間以外に)学習ボランティアによる算数支援を行う。※複式解消に向けた取組